

お金のこと、すなわち稼ぎと儲けのことは親がしっかり教えよう

不動産投資家のバイブルの一つに、『金持ち父さん・貧乏父さん』（ロバート・キヨサキ著）があります。高学歴なのに収入が不安定な父親と、学校を中退したのち億万長者となった親友の父親。二人の父親にある差はどのようなことから生まれるのかを詳述した書籍です。

それはまさに学校では教えてくれなかった「マネーリテラシー」で、僕もその内容に感銘を受けました。「これからは、単に学歴が高いということが大事ではなく、それ以上にマネーリテラシーが重要なんだ」と。

『金持ち父さん・貧乏父さん』では、不動産投資によって資産がお金を生む手法が語られています。その手法はまさに、貧乏父さんが選ぶ道というべきものです。そして、その手法は子育てにおいても、早い段階でお金のことをきちんと理解させておくことが大事だということを教えてくれています。

子どもの頃は、まず、おつりを確かめることが大事でしょう。また、小学生くらいにな

れば、商品にはもともとその商品をつくるためにかかるお金（原価）があって、そこからいろいろな人や業者の仕事（利益）を乗せていって、僕たちが買う価格（販売価格）になっていることを知っていることも大事です。

さらに中学生くらいになると、金利という考え方や銀行はどうやって稼いでいるか（預貸や手数料）なども理解していて損はありません。そして、いまの僕のように資産に稼いでもらうといった考え方のほか、負債とか掛け商売といったことの理解も大事になってきます。

僕にはいま大学生の息子と中学生の娘、二人の子どもがいますが、折りに触れてそういう「大人のお金の事情」を伝えました。

いま、学校教育でも小学生は小学生なりに「マネーリテラシーを身につけよう」といった教育は、僕が子どもの頃よりもなされているようです。かつては子どものお金の話をするのは「はしたないこと」といった見方もありましたが、いまではそういう見方もだいぶ薄らいできているのかもしれない。

語彙力のある子に

マナーリテラシーとともに、自分の子、また僕の営んできた認可外保育所の子どもを見て、「語彙力の高い子に育てることも大切だ」とあらためて思います。語彙が豊かということは、表現力が豊かということです。それが結局はコミュニケーションの基礎ともなってきます。とかくコミュニケーション不足といわれるいまの時代、喜怒哀楽はもちろんのこと交渉・説得においてもコミュニケーション力の有無が問われています。

僕の子に関していうと、幼い頃、親子でしりとりをよく遊びました。飽きてくると「次はしりとりじゃなくて、『あたまとり』に変えてみよう！」などと、言葉の頭の文字をつなげていく遊びを延々と……。そういう子どもの頃の言葉遊びが大人になっても影響しているように思えます。

また、少し大きくなると、やりたいことがあったときに、頭ごなしにダメといたり、怒り出したりするのではなく、お父さんの考えではこういう理由があって反対だと父の意見を話します。理由を説明することも理解することも、まさに語彙力がものをいいます。

息子がピアスをしたといったことがあったとき、「体に傷がつかないように大切に育てたのに自分で傷を入れるオシャレは、お父さんもお母さんもイヤだから反対」と話したことがあります。髪は金髪で大学祭（三田祭）のチャラ男選手権に出る子ですが、おかげでピアスはしていません。

大家業に就くと、同世代のサラリーマンより格段に家にいる時間が多いもの。そのなかで育児をする場合、好むと好まざるとにかかわらず、今風にいうとイクメンになるわけです。ならば、それにふさわしい親子・家族になろうと……。『会話の絶えない家族』でありたいと思い、そのなかで子どもを育ててきました。でも、きっと息子は理屈っぽい父親と思っているはず（笑）。